

世界の牛乳乳製品市場は異例の状況に

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2022年6月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会6月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの近況として、①2022年1~4月の生乳生産量は前年同期比で0.6%減少したこと、②庭先乳価が上昇を続ける一方で濃厚飼料のコストは一昨年のおよそ2倍になっていること、③乳製品価格は記録的な水準になっていること、④消費需要は食品インフレの高止まりの影響を受けていることなどを報告している。また、世界の近況として、主要な乳製品輸出国では2022年1月~4月の生乳生産は前年同期比1.2%減少した一方、世界の乳製品需要は堅調に推移し、中国の需要が減少するも東南アジアでの購買が活発化していることなどを述べている。さらに報告書は、投入資材価格の高騰、異常気象、及び環境面での制約が、世界的な生乳供給不足につながっていることや、ウクライナ紛争が牛乳乳製品の供給を含む世界の農業食料チェーンに大きな影響を与え、食品インフレを引き起こし、食料安全保障を脅かしていることを指摘している。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第42回会合は、以下のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で2022年6月29日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)
- GIRA (食品・飲料分野及び小売り業界のコンサルタント・市場調査会社)の外部専門家

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2022年1~4月の生乳生産量は前年同期比0.6%減

2022年1月~4月のEUの牛の生乳集荷量は昨年水準を下回った(-0.6%)。生乳出荷量の増加を報告したのは、加盟国のうちポーランド(+2.4%)、イタリア(+0.4%)、デンマーク(+0.6%)など9か国であった。主要生産国の集乳量は、ドイツ(-1.7%)とフランス(-1.3%)の減少が続いた。

EUのクリーム生産量は3.2%増加した。その他の乳製品の生産量は、全粉乳(-4.9%)、脱脂粉乳(-4.7%)、バター(-3.9%)、はっ酵乳(-1.4%)、飲用牛乳(-0.3%)と、いずれも減少した。

EUでは庭先乳価が上昇を続ける一方、飼料コストは昨年の2倍に

EUの平均庭先(牧場出荷)乳価は、今年毎月上昇し、近年の水準を大きく上回っている(4月は1キロ当たり46セントで、5年間平均

より35.1%高かった)。2022年5月の加盟国の予測では、さらに1キロ当たり47.36セントまで上昇するとしている。生乳価格はキプロス(-0.2%)を除き、すべての加盟国で前年を上回った。上昇率が最も高かったのはリトアニア(+59.9%)、ラトビア(+48.1%)、アイルランド(+40.1%)で、最も低かったのはマルタ(+12.5%)とクロアチア(+16.7%)だったことが報告された。

2022年4月、集乳された生乳全体の4.5%が有機だった(加盟国のうち22か国からの通知による)。有機生乳の価格プレミアムは、2021年後半から今年初めにかけて大幅に低下した。3か国の加盟国(フランス、エストニア、ラトビア)では、有機生乳の価格は一般品よりも低くなった。

EUにおける酪農生産のための飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、2020年と比較しておよそ2倍になった。

EUの乳製品価格は記録的な水準に

EUの平均乳製品価格は、いずれも記録的な水準にある。EUの脱脂粉乳価格は、4月中旬にピークを迎え、現在は1年前と比較して57%高くなっている。全粉乳価格は、5月初旬に記録的な水準に達し、現在は2021年6月と比較して59%高い。EUのホエイパウダー価格は、過去4週間で2.9%低下したが、それでも1年前に比べて32%高い。バター価格は過去12ヶ月で77%上昇した。チーズ価格も今年に入ってから概ね上向いている。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づくEU在庫レベルの評価は、民間の脱脂粉乳在庫量は2022年の最初の数か月に非常に低い水準まで減少し、最近の輸出の減少により4月に季節的に増加した(約10万トン)。バ

ター在庫も非常に少ない(11万トン)。小売需要は価格上昇の影響を受け、輸出機会は今時点では限られている。チーズ在庫は3月と4月にやや増加したが、まだ低い水準にある(約21万5000トン)。域内および域外のチーズの需要は堅調である。

世界の主要輸出国の2022年1~4月の生乳生産は前年同期比1.2%減少

米国、オセアニア、英国、ウルグアイで生乳生産量が減少している。全体として、主な輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)での生乳集乳量は、2022年の初めの4ヶ月は前年同期比で1.2%減少した。

世界の需要は堅調に推移し、東南アジアでの購買が活発化

世界の需要は堅調に推移しており、東南アジアでの購買活動は活発化しているが、中国の需要は減少している。第1四半期の世界貿易の減速は、主に生乳の入手可能量の低下によって説明される。2022年1月~4月、EUとニュージーランドは輸出シェアを一部落としたが、それでも世界の輸出量(生乳換算)の54%を占め、米国と合わせると73%であった。2022年第1四半期のEUの輸出先トップ3は、英国、中国、インドネシアであった。ウクライナの乳製品貿易は激減しているが、4月までのEUのウクライナからの輸入量は増加している。買い手は最近非常に慎重になっている。中国のような乳不足国からの世界的な需要は2022年には減速するだろうが、2023年にはゆっくと回復する可能性がある。

消費需要に食品インフレの影響が及ぶ

家計の信頼感は低下している。消費者は、

ブランド／プレミアム製品や有機製品から、より手頃な価格の小売ブランド／基礎食品にシフトしている。需要は食品インフレの高止まりに影響されている。消費者は節約しようとしており、値引きなどの販売促進商品を求めている。小売業者は、チーズの需要がさらに減少すると予想する。

欧州委員会は、最新の牛乳乳製品市場の短期見通しを紹介した。春の天候推移と投入コスト高騰を受け、2022年のEUの生乳供給は予想よりも減少する見込みである(-0.6%)。この減少は、酪農家による飼養頭数の減頭や乳牛1頭当たりの乳量の伸びの低下(EUの一部地域における牧草の質の低下と収量の減少に加え、飼料給与量の低下を想定)によるものになる可能性がある。なお、集乳量の低下にもかかわらず、チーズ生産量は増加するかもしれない。

世界の牛乳乳製品市場は異例の状況に

牛乳乳製品市場は、まさに異例の状況になっている。投入資材価格の高騰、異常気象、及び環境面での制約が、世界的な生乳供給不足の背景にある。ウクライナでの紛争は、牛乳乳製品の供給を含む世界の農業食料チェーンに大きな影響を与え、食品インフレを引き起こし、世界の食料安全保障を脅かしている。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/default/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2022-06-29_en.pdf MMO economic board meeting report - 29 June 2022 . European Commission.

(資料閲覧:2022年7月5日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)